

ゴルフ場でシイタケ栽培

ゴルフ場を運営する西武観光(大阪府豊中市)は、今治市菊間町田之尻の松山シーサイドカントリークラブ(CC)で高級シイタケの栽培を始めた。11月末に新会社「グリーンボックス」を設立し、シーサイドCCの空きスペースで事業展開する。

大阪の運営会社 空きスペース活用

松山シーサイドCC(今治)



松山シーサイドCCの空きスペースを活用したシイタケの栽培場—10月26日午後、今治市菊間町田之尻

シーサイドCCでは、1977年の開業当初から手付かずで残る9ホール分の土地の有効活用などが課題だった。藤井より子専務が11月、翌年

4月に収穫繁忙期となるシイタケ栽培に着目。ゴルフ場は池や日陰により湿度が高く、栽培に適した場所が多くあることから事業化に踏み切った。

種菌は一般社団法人「日本のこセンター」(鳥取市)が開発した「115号」を選んだ。センターによると、傘が大きく肉厚なのが特徴で、鳥取県や石川県ではブランド化に成功している。A級品であれば1個数千円で取引されるといふ。

現在、シーサイドCCではゴルフ場内の計約2千平方メートルの土地でナラやブナの原木計90トを育てている。5年後には原木を250ト規模に拡大して2026年9月期には4200トの収穫を見込む。収穫したシイタケは「潮騒の華」の名称で、生シイタケや乾燥シイタケとしてシーサイドCCだけでなく、近くの道の駅などでの販売も目指す。

藤井専務は、口の中で広がる「115号」の濃厚な香りとコリコリとした食感に魅了されたとし「潮騒の華が食卓の名脇役と言われるようにしたい」とブランド化に意欲を燃やす。つくだ煮などの加工品へも商品展開する構えだ。

(藤村成悟)